

百人一首像鈔 下



坐忘良





宣時

信長女位下所人
母三木右衛門守重

実方

長徳寺十月十一日
於此處



信長女位下所人
右中納言位下陸奥守

信長女位下所人
母三木右衛門守重

武庫川女子大学図書	
昭和19年2月15日	911.147
	Ho
247207	2

信長



卷之七

久也

ふにの

七

三

子

易經

五



伊賀山近に新溪を國乃名をさうとぞうたはふ
 ともあつてせりさせるとつくと同じるもあり
 わづかにつとて悦われども新小用りうん
 勝るひふとてつとてのこゝろなりぬれぬ
 かゝつてひえやういづとて胸小あつたひと
 えつひやう縁がうと人いづてふんとこゝろひ乃
 ねあるんやうとあつたひのづる奇とさうと
 一とさうわたりたうとさうとさうとさうと
 づとさうの氣あり三光溪乃悦えやうと切くえと
 といふととありてふとてあつたひとさうと
 あるやうに奇とさうとさうとさうとさうと

せんふとよいといふ人といふ事方々ありて同村の
 殿上人の御子にてお殿の冠とあやう打と
 されしと云ねれと冠とさかしたるをさうと云と
 あざりて是のうろあるおれ冠おわいおんといはれ
 くれい実方々らんといふとてこれより主上い
 るといふにらんぞれて実方々奇執見てま
 れとて陸奥におありてはこれにて取おけり
 されどて洞ふくせおんを海邊でんと移い
 て今一び老壁乃板とらやといれりさて後ふ
 まて実方々さく殿上人の老壁乃ありふあらず
 着りたりといひてふり

六 若原通信お殿

恒使云心男母の恒使云女

九 若原重相

所補

恒使云

永後法性寺大改大匠為元臣一位
 所補云九男男
 武義重恒使邦

女

通信

左中納言通信上イ下
 女通信云女

正徳六年丁酉 二十三歳



後漢書

三

物

子

張
子

ら

75

知

何 子



何事かぬなりとて思ふて思ふて思ふて
て新二首のまゝ

今もあれなりやいかるうゝひととるはまふをみわら
 又今一箇いののれびの奇ふいありわれびら
 れとらまふぞいれい中とらふちがちあぐ
 あまのうれ切あまのいぬわれびらうやう
 といとれらふわれあう西向に経向や世
 君あかくのどあまをびあうひと
 乃きふあやうひれまらるるてはらうと
 といふあふふあふ

3



寧女やまのむすめ

陳
補

集

又号注典院人

道益

通長

大綱
卷之四
婦人

有入於乃保母也

仲周

儀同三司守帥內大臣母之二位誓不忠女是也
儀同三司也後指達二女內伯卜アリ

通雅
卷三



内院大書 中納言 恩宣云
 冬嗣 長良 是年 倫寧 女

 外未依母族也 在天乃依
 母也長良後 可人也

河東入后指談すよりより多しといふ事ありけり
 まづいねとまへく侍らるべしとて出たるとるに
 去ふゆゑは是又みり乃歎つとてさる事ある御也
 若し乃否とく見侍るまへにとあるまへに
 まづふと侍るに歎つといふに侍る事ありけり
 といふ久しと相とるにめとてとてとてとて
 秀物とてとてとて乃相とるに奇なりとて
 といふ相とるに乃とてとてとてとてとて

儀同三司母 儀同三司 侯月三司

長徳二年二月十四日
 左大臣等奉府内二年四月
 内大臣正三位内使
 長徳二年二月十四日
 左大臣等奉府内二年四月
 内大臣正三位内使



1111

A black and white woodblock print illustration of two women in a Japanese garden. They are seated on a raised wooden veranda (engawa) under a traditional roof. The woman on the left is looking down at a book or scroll, while the woman on the right looks towards the viewer. The garden features a stone path, a small pine tree, and a fence in the background.

休用云袖制と唯大馬と主代云いも云の唯提
 大云後一位唐おと依同と云と云い各別のだぞ
 個云小中実白道隆ういもめ得りあるあ後
 云あ後と云是と云めううと様人乃のいれ
 云されい一と云と云ひ出あて云云うせや
 云云と云切ふあられ満うさうや様と云乃
 云云人の云かろお付と云りいしくい
 云いといんあふうえなくやうと云乃勝
 神あり



大納言云何
 藤原公一男号也
 藤原大納言
 藤原公一男号也
 藤原大納言
 藤原公一男号也

藤原公一男号也
 藤原大納言
 藤原公一男号也
 藤原大納言
 藤原公一男号也

藤原公一男号也
 藤原大納言
 藤原公一男号也
 藤原大納言
 藤原公一男号也

藤原公一男号也
 藤原大納言
 藤原公一男号也
 藤原大納言
 藤原公一男号也

卷之四

上東門院女房

舟内が主イ母島子國親王

妻よりわかれぬ

一統志

女子 上東門院女房
号和泉式部
御越中書

保衛女

有^{ある}一^{いち}既^いに^に之^{これ}を^を掃^{はき}速^{すみ}き^き

玄翫前中ふ留使下大江雅彌女





後撰
ありま
るる
山

美

子

風

子

吳

人

王

ちんちん



何れも入れくある男乃おぼつめくわひひりくるに
あふ座とありきなり序奇におおど序奇あはれこなるん
るなり乃那小のしをねえ是いふたよりいんあがり
乃序ちあら大眼くのどう首乃奇乃さひきてまろ
い席きのゆゑも境ふつべいていやう乃さなみんご
さよりきづー扱ひ奇のふでよりあんとあうてつふ現
いでかとのまじり月原のまじりさこそいして
つでとぞあきらめて大船乃ゆゑもあに沈ぬふ比ぞ
あぐらもゆるむなりひ奇ぞそと人をもよそれやいまるとい
はと恨てあふとおせさるゝする内ふ人まうあ書と男ふ
あうてふふふあうて中上松名殿松は國乃名承あり



[illegible]

小式部内侍
 小泉左衛門

道員女母和泉式部

上東門院如房

攝氏之治

攝德兄子十一世孫

仲遠 — 道貞

小式部内侍



大江山

73

の

書

人

卷之四

卷之六

乃

て



河本小和泉守を保留せしめて丹後國は仍り
 たるを以て之を奇令ありたるは小和泉守肉付あ
 ると信紙中納言を以て之を以て之を以て
 奇令せしめ其の丹後守人と以てりたるや
 信紙のいまだてなきやなりとあるは、
 小和泉守とて之を以て之を以て之を以て
 是の小和泉守奇令なりとて之を以て之を以て
 小和泉守とて之を以て之を以て之を以て
 之を以て之を以て之を以て之を以て
 あり奇令よまはれりて之を以て之を以て
 いそぐと信紙かくよりなりて人の疑を

り一ふを茶とてさるるをさるるや
 ひ又あてふふをさるるをさるるや
 皮をさるるをさるるをさるるや
 こそゆりうれ大いふのさるるをさるるや
 まごふとてさるるをさるるをさるるや
 文のふとてさるるをさるるをさるるや
 和泉のふとてさるるをさるるをさるるや
 て後藤のふとてさるるをさるるをさるるや
 くれあり

停勢大捕
 余主捕親母
 上東門院乃女房
 仍号停勢大捕
 系号大中長徳をト一あり
 上東門院中より時
 假ととと





心あは
 ちの
 ちとれ
 八重
 さう
 九重
 あは
 ねふ

何と云ふ一糸院の何と云ふ八重と云ふ
 まつりけうと云ふまふゆきと云ふ花と云ふりそ
 命と云ふと云ふせられけれはよると云ふふのさ
 うと云ふあつるふと云ふひあはれと云ふ八重と云ふ
 ちと云ふくちと云ふまふと云ふあはれと云ふまふ
 奇物乃ち物ありやうのふの天棚乃ちと
 平生乃ちと云ふあはれと云ふひと云ふあはれと云ふ
 何と云ふんまふと云ふれと云ふあはれと云ふ

[illegible]

とてあけたり乃まひ下しもるまゐられが勢あり
あまふひと一それがまたのあれよりとあれなり
ゆゑあつたお宝をゆきとて城にくり是ときれ
えいひひもろくんととり又よにおぼれりよにとり
御のまへ古奇やとせぬしせぬよりふかき家
あるこれとらる祇ねおん人乃奇とたるはあふ
お一人かりうれととふとおちてまぢかふは預
やゝぬゆふたふ乃奇のりりこととととと
あふとゆきされがあひひきりのとるひろうじん
ゆきやそれゆきとふめぐしてなるといふむひ
とらづーとてゆきとるなりー

た京大吏道雅 申内大匠伴用云男
母大須云重光之女

伴用 通雅 三佐たあま

女子 上東門院女房云
就自法持也

何れも伴用乃其まゝなり
乃れりくはるる人みおびく
々々々おほやけさうりてまゐりあ
つてくられぬいふもかよふあつた



後集



千載集

物以類聚

三

門子

12

わ
る

卷之五

卷之六

可錄



宇治^{うぢ}おゆ^{あふ}りて^{やそ}よ^{うぢ}あ^きせ^きと^きる^あ九^あ乃^な新^あ示^し

武彦八十富子の納付本おごふはのり来さす

とよと直万綱代ハ致成与相之全乃四上所

あぐりれろ水魚^{ヒナ}泳ぐに^{ヒナ}あぐとろとく

奇乃心あはれうぢの山やまをこえてりあく川上乃霧ときり

それより先、おつたのやうに、おつたあめ

ちるゑんやれくとありれの又われのくと

あふあふあにわづれる服おの肥をうるん

[illegible]

七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

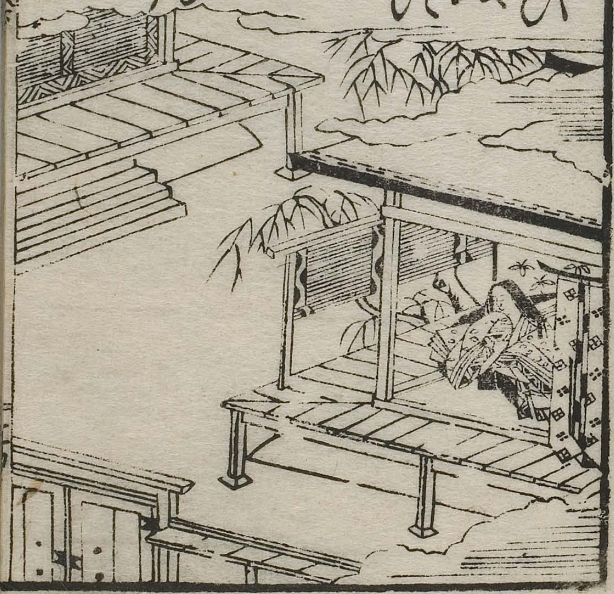
卷之八

相模 先祖の御
 入通 一平宮女房の
 しはら 式松栢の
 大はら 女國事
 いはら 相模
 母能 吉慶彦孫女



奇し
 手受 六年 内裏 奇合
 五といふら 奇合
 されといふら 奇合

相模
 奇合
 神代
 あれ
 意
 くらえ
 名え
 くらえ



九州
四三

或曰何院淨乎



全宋集

あま

わつと

之

山

三

卷之六

四

夢

[illegible]

ちがくやん後乃家母のうけさびりて孫ド
 小成やぐまふとむねとて侍勢人將ガ
 々ふ九重中といひ内儀うひあふんとて
 とか時おのふとて西宮御乃事依あり名
 乃乃女乃月乃て侍とてとて侍れ阿依
 房が安か門院室系お母乃ける御小依とて侍よ
 わりてお新ハとてその累張とてトのふ
 いまれとていふとてとてふありお新出の同
 席乃おる天性操乃上あふとてふふ張
 くるふとていありとてとてとてとてとて
 屋とてとてとて

三院 偉后貞冷泉院

第二沖子五位五年

母乃里大后系よふ三

系乃通授改系乃とて

天慶四年二月三日改他

寛和二年七月十六日表系乃

寛弘八年三月位 長和五年

正月廿九日儀位 寛仁元年四月

九月廿九日同八月九日器乃系乃

村上天皇 冷泉院 一条院 三系院



龍門法師
 俗名永懷
 長門寺主
 号長春

龍門法師
 龍門法師
 龍門法師

龍門法師
 龍門法師
 龍門法師

龍門法師
 龍門法師
 龍門法師



龍門法師
 龍門法師
 龍門法師

龍門法師

龍門法師

龍門法師

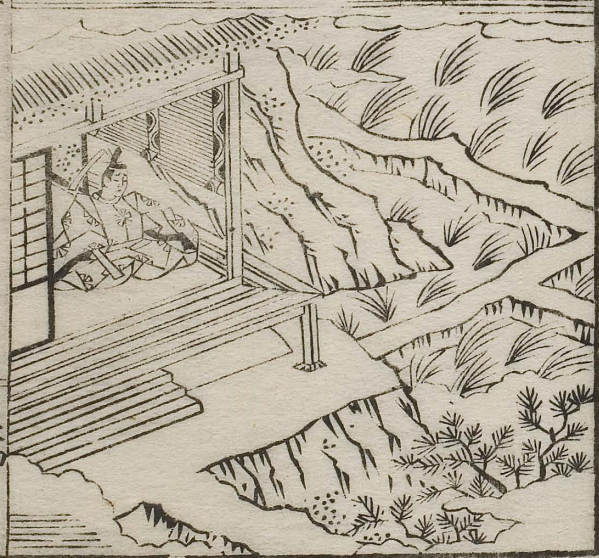
龍門法師

龍門法師

龍門法師



金糸集
夕ぐれハ
つゆ乃
いあそ
ぼきて
あふ乃
あふ乃
あふ乃



大納言源信 中納言源通方男
母ハ源國盛女

宇多天皇

一承和子天皇第九武尊
教実親王

一兼和子
雅信

中納言
道方

指原氏乃西三
信氏大内言

一兼和子
重信

後四位上東三
俊光

後惠号太史



此乃八田家乃秋田とらふとより新乃や
 といさふくわづりふく休る派りま
 下田乃福家ふたふれ秋田そよくとれ
 ばまをふじやそわの風情とふれあり
 たりふくふとまや又ゆふれありふく
 魚一まふれハタふれふれとてふく
 され乃タふれ乃とふくふくふく
 秋田乃聖廟法ふ乃百ふ
 たりふれ教とふれふれふれふれ
 とふれふれふれふれふれふれふれ
 ありふれふれふれふれふれふれ

此乃内親王秋紀
 紀伊守重隆
 此乃秋紀
 秋紀とふれふれ



植武天皇
 葛原親平
 内里真我
 紀伊守重隆
 紀伊守重隆
 紀伊守重隆

中納言 藤原 公房
 母 藤原 親女 正二位
 大藏 左衛門 尉 号 仁師

大江 青人 千右

中納言 藤原 公房
 母 藤原 親女 正二位
 大藏 左衛門 尉 号 仁師

藤原 公房
 母 藤原 親女 正二位
 大藏 左衛門 尉 号 仁師

藤原 公房
 母 藤原 親女 正二位
 大藏 左衛門 尉 号 仁師



正三位 藤原 公房
 母 藤原 親女 正二位
 大藏 左衛門 尉 号 仁師



藤原 公房
 母 藤原 親女 正二位
 大藏 左衛門 尉 号 仁師

五位上書張俊成仁和尚師道

新撰類編

和漢之書

流通

此
笛之長

何虫尔傍起光矣

結

佳字多紙交くおれふれは注性支不



[illegible]

授政事白大政大臣一任法名承親

如是院裏白一男母六条在大片取房女

以壹白
字海

京極殿白

道長賴通

師實

樂府

母具乎親

法亦因自

知是院富家殿

師通

忠實

西臺長師房公

四夷臣服

法性子問曰

法性寺與皇九條所

忠通

家安房

英名

良經

漢系極極改
母季行知女



久々云々

[illegible]

崇徳院 衛仁
 多祥院 一日
 西侍 院 子 大
 公 女 但 白 河 院 子
 元永二年 六月 九日
 降 延 同 六月 十九日
 親王 保 安 四年 五月 八日
 為 太子 即 受 祥 五
 月 二十九日 即位 太極殿
 大治四年 正月 朔日 元服 十一集



水とや
 岩と
 山と
 川と
 日と
 月と
 あつて
 なる

永治元年十二月七日讓位在位十八年
 仁之七廿二郎海後後國去十二月於仁和
 結清出家 長治二年八月廿六日於肥
 前崩 年六十一 追号崇徳院

崇徳院

第一文在位十八年

鳥羽院

後白河院

第二文在位十三年

近衛院

西蕃福門院
第三文在位十四年

永治元年十二月七日讓位在位十八年
 仁之七廿二郎海後後國去十二月於仁和
 結清出家 長治二年八月廿六日於肥
 前崩 年六十一 追号崇徳院

源兼昌

源入位下

源俊満二男
里所宮小姓

宇久天皇 教実親王

雅信 時中 朝臣

仲良 俊満
色男



阿づら

あゝゝゝ

孫がね

乃 守



百八下

修理大夫歌集之男何名集

紀傳書大略

總姓

連茂 出雲守五下

賴任

中納言正位 大納言正位
家成 澄季

清輔撰續初花集



撰續詞花集
不及幾絕

新古今
煉風

五

乃

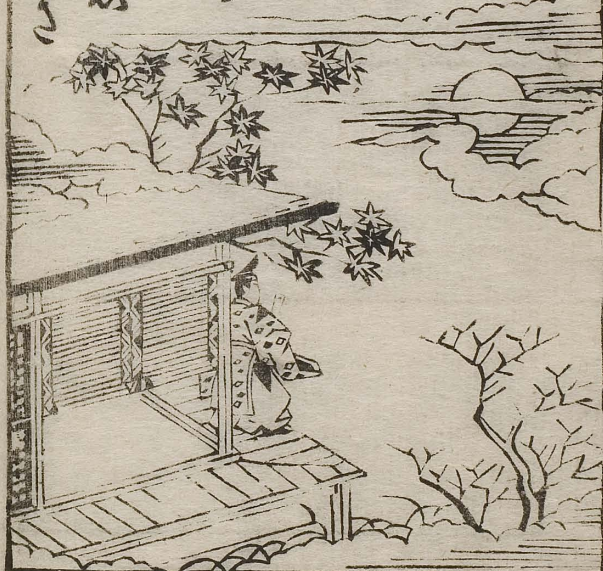
之

五ノ
 五ノ
 五ノ

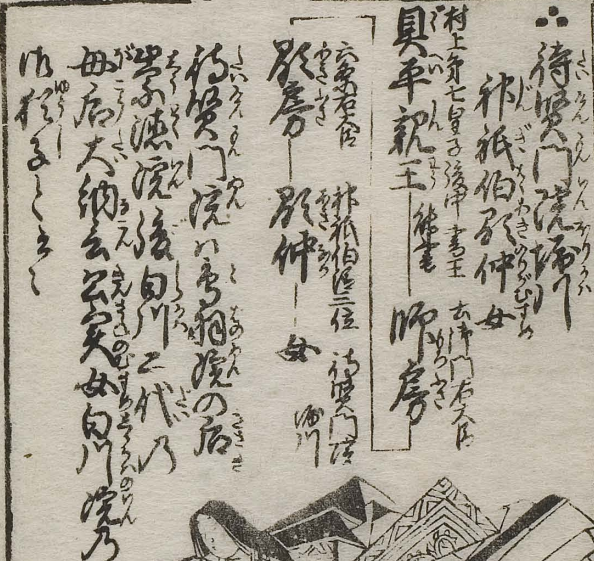
乃

子

子

[illegible]

あゝん
うへ
うへ
うへ
うへ
うへ



子載集

知

如

リ
ク
ク
ク

五

卷之五

月
光

乃主

[illegible]

道周法師

持中師云
もろく世に
惟孝

惟愚
四條下
唐

我師

清孝

五條下
道周法師



思ひ

さそ

みのらん

あは

れと

うは

ふね

あは

たり





ふ献
世中よ

あきれ

い

山乃

麻も

たぐり

定長

中勢太補後五位下法名康連
父後成身後源子とく

後成

定家

正三位中納言民部卿左近将軍
権者母后後守親忠女

女

竹後具定母初勅撰ハ如クアリ 通具母
集三大略 皇太后后宮大夫後成女とわり

何と云ふ事懐の面々いふに竹の耐麻乃弁とてよ
あはれと云ふ弁乃のいふに小世のいふにとあひあて
今と云ふいふ山乃奥ふ家の地とあひあていふとあひ
とてと云ふ山乃奥ふと世乃いふにいふとあひ
て世中よのいふにいふとあひとあひとあひ
とて世中よのいふにいふにいふにいふにいふに

五十一

大里右后文前右進正位下

清

後三

顯家

有來

保李

澄敦



東

[illegible]

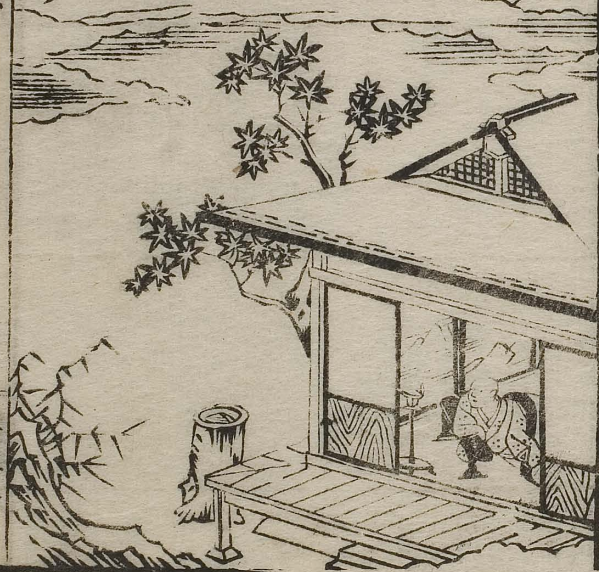
所
一
經

然の奇しくもありと
 人の心は乃ちありと
 今とてわが身は乃ち
 是とてわが心は乃ち



千載集

秋の夕
 油の
 ころい
 あひ
 やうで
 秋の夕
 ひの
 つま
 りる





子裁集
 おきとて
 月やの
 物にと
 とも
 か
 海ある
 日ある
 うか

月乃御のまゝに御月おひくひらあるじ
 月おあけく月の日かみはくさうじや
 らうと云ひくくくくくくくくくくく
 とれ西乃乃風有ありきくくくくくく
 ありきありき
 世おあれおあきとくくくくくくくく
 やどり木のまゝに御月かきくくくくく
 いくくくくくくくくくくくくくくく
 へくくくくくくくくくくくくくくく
 外換新新の歳若年ふくくくくくく
 月乃御のまゝに御月おひくひらあるじ

六 宗蓮法師
 後成 宣長
 像海河雲架
 二年七月九日年時斗と年とに中多や
 か猶入る通主申とて来りぬを
 同之に返出已依る神服也
 浮生をきこず所不所ある今も
 表傷と思難禁月初がし有欠相分已及
 教十四人かみ并るる信安後年已いあり
 是通今取果る通可振る所可也

俗名宣長中勢少胸入通
 兼蓮也後成曰子宣長後海
 明月記云達仁



新古今
 ひろ乃
 病と
 まさ
 ひろ
 後乃葉ま
 霧
 しろのり
 あきさ
 タダレ



たふひ
江乃
わの
り孫れ
一よん
かを
はくや
こい
まゝるこ

何れも小振政を大長お供々々町家乃新舎り
縁を重きとるるはよはしとるる難はま
それ故にいつても教うてはるるはるるの
まゝるのまゝるはるるのまゝるのまゝる
りりりりりりりりりりりりりりりり
やとるるはるるのまゝるのまゝるのまゝる
とるるのまゝるのまゝるのまゝるのまゝる
つとるるのまゝるのまゝるのまゝるのまゝる
よりおるりせよいつておるりせよおるり
おるりせよいつておるりせよおるりせよ
おるりせよいつておるりせよおるりせよ
おるりせよいつておるりせよおるりせよ



殿富門院大輔殿富院
 法門院第一皇子女御
 乃補 延春 頼明
 三承 朝憲 行憲
 任成 五位上本名詭稱
 女 殿富門院
 女 日院大輔
 或從菅原相八世從菅原在良女



千載集
 見とるあ
 とどろ
 わる
 神
 ふれと
 われふそ
 名ふ
 ころハ
 かろす



百有

[illegible]

又も侍ふ性癖へあ床下とわりく丸の山
 どり乃とれとつふ物とるまゝとて祇儀云
 泥にやれとて只張とてより独りの人
 とてまゝ 其金云乃といひ入向吹一とら
 仍れ何とぬお強とてよりよりや耳ふれ
 とる物ふれたとてびやう乃とてとてふよりて
 何乃字とてぬ養復還とてぬお字し何とて
 ぬ人丸乃や引乃とてりのやの奇城とて
 ぬとてぬやとてぬおとてぬおとてぬや
 どり乃奇城とてぬお 情以新ぬとて何
 何可用とてぬおとてぬおとてぬや

心之位賴政二女

二子溪ハタケ内川ハタケ糸ハタケ一里子

清和天皇 貞純親王

煙基
酒中
頻來

名田三河
頼延
右桑太夫大内守漢
仲延
守

仲政長政次男
賴行りやう
女むすめ
丹後丹後

女
二
東
侯
侯
侯



千載集

ワ
グ
紳
ハ

上

尔

月一

のた

人

子

之

まろ



新石意とてつる心とてつる心は神乃一
 ひとはあかり明もさうばあひをにまゝ
 乃やど紙文より大ふられぬりとまぢい
 入らぬとされむとてつる心とてつる
 舞ありまると神乃一はつとてつる
 見る社なる所の事ある神はたつ下小標め
 いきと相とくこれと入れられつる心とてつる
 とてつる心はあつた時女房の中ふとつる心
 つる心とてつる心とてつる心は大海の底よ流焦
 を圓といふ石とてつる心とてつる心は海に流入と
 かかるゆゑのつる大海の増減ありとてつる

六 鎌倉の大將
安徳の若大將の二男
母平時政女三任氏政子
 義家 義朝
二任佐美大將子大相右大將
義朝三月信長命

頼朝
二任佐美大將子大相右大將
義朝三月信長命

頼家
佐美大將軍方忠實
母三任時政女

實朝
右大將の二任
母同上

い 鎌倉の大將 常陸并相國
常陸の三任大將の二男
母三任時政女
 義家 義朝
二任佐美大將子大相右大將
義朝三月信長命



世中
 つみき
 りか
 なまこ
 り
 わり乃
 小おの
 子
 解し



刊名類經新編

飛鳥升 祝歌翁 新古今撰者

京橋
聖位橋大納言

師實忠教

刑乃後復
刑乃後復下

賴補
 賴經

宗長

難重
宋左參政習毅
後三位 范名升 流



擲教乃んといふは古人の言ふ
 凡そこれ自書なりとあるはしるありはるあり
 との言ふと見りんといふ言ふありはるあり
 ひゆりといふ言ふ威儀なりややなりなり
 とつたに也但候とていふなりはるありはるあり
 まりくといふややなりなりなりなりなりなり
 初めなりなりなりなりなりなりなりなりなり

前大備三國

中律道枝才六十二代座主
 後号慈法号吉水和尚
 其年之年十一月六日
 改名慈國又壽二年
 己亥四月十八日誕生
 赤保九年九月廿五日入城
 其年赤保三年三月八日
 後号慈法 但滅後三年 系系前



初

3

五

來

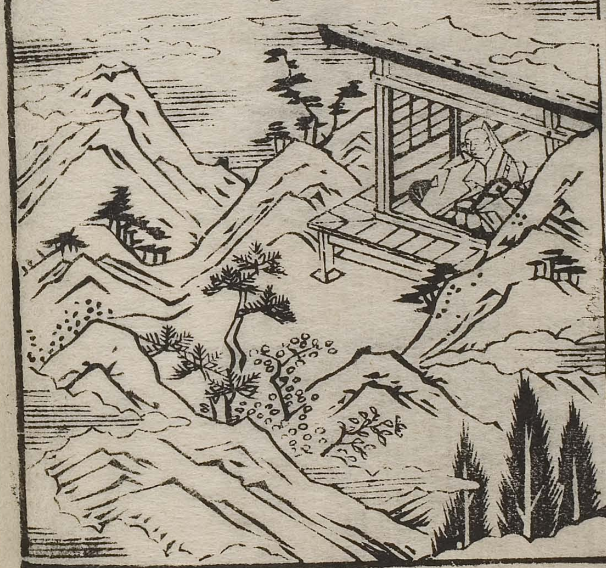
萬

三

不

しんぎ

人
能

[illegible]

入道前大...
 肉...
 母入道中...

父...
 母入道中...

通孝
 父大酒...

実宗
 坊城門大...

公經
 号西軍...
 和禄年...



新物...

花...

あ...

ふ...

ゆ...

あ...

あ...



[illegible]

後鳥羽院 傳

倉院中 日市子

母 藤原 隆子

七氣院

治承四年七月十四日 降

壽永二年八月九日

跟 依 同 三年

七月即位 大正 文治 六年

正月三月 元服 十歲 建久 九年

十二月 讓位 十九歲 立位 十五年



人色

人色

人色

人色

人色

人色

人色

人色

人色



建久三年七月八日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
良然同月十三日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
二月廿二日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
九月可奉^レ号後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
仁治三年七月八日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
仁治三年七月八日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
仁治三年七月八日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
後醍醐天皇御教申出奉^レ旨

仁治三年七月八日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
仁治三年七月八日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
仁治三年七月八日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
仁治三年七月八日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
仁治三年七月八日後醍醐天皇御教申出奉^レ旨
後醍醐天皇御教申出奉^レ旨

順德院

律守成

後唐明宗二年

母の院おのゝいん 散ちり原はら室むろ子こ

嫌きらた大おほ罪つみ季き女を

西治二年十月五日

ち子正氣集元二年

十一月十五日交彈

長久三年四月九日
 依位

同七月奉移新渡園

仁治三年九月十二日
小泉後園

年六歲



九

志

子

くさひ

あふ

22

あゝわら

わね

ひかり



法性寺

五人

後系極務政

河原太

後連太

三原太

入道新太

公任

大御云

經佐

中納云

忠持

忠補

作平

教忠

朝忠

忠房

定賴

仲磨

重經

北系

道雅

家隆

在系

八人

教行

源宗平
源実方
源俊光

五位
教義春

地下

文房康秀
河内新恒
坂上毛利
紀友利

十七人

大中臣能宣
教道信
教法輝

教基俊

大に千里
王生忠孝
去通列樹
教典風

紀貫之

文房康

王生忠貞

曾孫好忠

源兼房

女房

有入道信母

信女

小野小町

有進

二人

信同三目母

十七

信勢

和泉寺

清原源光父

平兼光

清原元輝

源季之

紫式部
 未深赤門
 侯芳大卿
 相模
 祐子内親王
 二條院
 傷心
 三人
 大行尊
 大貳三位
 小貳中納言
 清少納言
 月防内侍
 祐實門院
 殷富門院
 大納言

喜撰
 惠廣
 良還
 倭惠
 藤通
 人壽
 後丸
 補
 法師
 九人
 素性
 通國
 西行
 赤人
 蟬丸

延至六年
初合是
致人百也
ヲ入レリ

晉書

父子或三代入仕名細字書

天智天皇 持統天皇

陽成院 元良親王

後鳥羽院 順德院

後深云 後義孝

法隆寺用白 後深云用白 後深云用白 後深云用白

前大信正意園

龜昭 崇性

忠孝 忠見

三條右大臣 忠

康秀 賴康

清輔 賴輔

後成 藤道

定家

公任 定家

和泉或戶 小或戶内侍

紫或戶 大或三位

經信 後光 後惠

源喜父 元輔 清少納言

行平

葉平

於基

德幸

修習大福

此百人一有... 經末國賊或吳或同仍... 通一不傳和命乃... 依且任所... 系信亦也... 思の... 未父... 皆爾... 連...

閑眺之時於可補し而已

李吟撰

延享三丙午年九月吉日

三条通柳馬場東南

坡屋仁兵衛

寺町通佛光寺下町

坡屋儀兵衛

皇都

書林

